

(提言)「CT 検査による医療被ばく低減に関する提言」

1 現状及び問題点

放射線を利用した医療は国民の健康に大きく貢献しているが、一方で患者の医療被ばくが増加しており、特にエックス線 CT による被ばくが多い。現状ではわが国における CT 検査による被ばくの実態の把握は十分とは言えない。CT の検査適応を適切に判断し、診療上の有効性を損なうことなく被ばく線量を最適化するために様々な努力がなされており、被ばく低減に向けた CT 装置の技術開発も進められているが、関係する組織・個人それぞれの自主的な取り組みに依存している感がある。また、欧米では患者やその家族に向けて医療被ばくに関する情報が提供されており、わが国でもより積極的な啓発活動が求められる。

2 提言の内容

(1) CT 診療実態の把握と診断参考レベルの利用促進

CT 検査による被ばく情報の記録体制を構築すべきである。政府は全国的な年間被ばく線量等を把握するとともに、医療被ばくを記録、保存、評価して医療機関内外で活用する体制をつくるための基盤整備を支援すべきである。

放射線診断検査の線量最適化のための診断参考レベルを充実させ、継続的に改訂すべきである。各医療機関は、被ばく線量の調査・検討、診断参考レベルを踏まえた検査プロトコールの点検を含む施設内線量管理体制を構築すべきであり、政府はこのような体制構築を推進すべきである。

(2) 医療被ばく教育の充実

卒前及び卒後の教育を通じ、医療従事者が放射線や医療被ばくについて十分な知識をもつことを保証する体制を構築すべきである。放射線科以外の診療科の医師の教育や小児の被ばくに関わる教育に特に配慮する。

政府は CT 検査の被ばくについて一般公衆に情報提供する体制を整備し、特に小児患者の家族が医療被ばくに関して合理的に判断することを支援すべきである。

(3) CT 検査の検査適応基準の充実と活用

CT 検査の検査適応基準の充実と普及が望まれる。電子カルテの検査依頼システムに医師の検査適応判断を支援する機能を導入すべきであり、政府はそのようなシステムの開発及び普及、検査適応判断の前提となる低線量被ばく健康影響を解明する研究を支援すべきである。

(4) 低線量高画質 CT 装置の開発と普及

医療被ばく低減のための新技術の研究開発を支援し、低線量高画質 CT 装置の普及を促進するように努めるべきである。